

第27回吉岡弥生記念講演会 (第344回東京女子医科大学学会例会)

日 時：平成23年5月23日（月）13:45~16:15

会 場：東京女子医科大学 弥生記念講堂

対 象：本学会員，本学学生・教職員，一般

挨 拶

(司会) 幹事 橋本悦子

会長 宮崎俊一

平成23年度(第50回)吉岡弥生研究奨励賞授与式 13:48~13:55

結節性多発動脈炎を含むリベド症状を呈する疾患における血清マーカーとしての
抗リン脂質抗体の検討とその病態の解明

皮膚科学 准教授 石黒直子

平成22年度(第49回)吉岡弥生研究奨励賞受賞者研究発表 13:55~14:35

性・年齢を考慮した非アルコール性脂肪性肝障害の
病態の特徴と治療戦略

(座長) 副会長 肥塚直美

原発性アルドステロン症における腎機能障害に関する研究

消化器内科学 講師 谷合麻紀子

内科学(第二) 助教 立木美香

第27回吉岡弥生記念講演 14:45~16:15

挨 拶

理事長 吉岡博光

(座長) 会長 宮崎俊一

弥生先生を語る

東京学芸大学 名誉教授 鷺山恭彦 氏

日本性差医学医療学会の誕生まで

財団法人野中東皓会静風荘病院 特別顧問 天野恵子 氏

性・年齢を考慮した非アルコール性脂肪性肝障害の病態の特徴と治療戦略

(消化器内科学)

谷合麻紀子

〔目的〕生活習慣病では、性・年齢が病態に及ぼす影響が大きい。非アルコール性脂肪性肝障害 (NAFLD) の病態の特徴を性・年齢の観点から生活習慣病との関連を中心に検討した。〔方法〕臨床病理学的に診断された NAFLD 625 (男 361, 女 264) 例を対象に、性別、年齢別 (30歳未満の若年, 30~54歳の中年, 55歳以上の高齢) に、食習慣に関するアンケート調査結果、生活習慣病 [肥満, 糖尿病 (DM), 高血圧 (HTN), 脂質異常症 (DL)] の頻度、一般住民 (厚労省全国調査の年齢層別結果) と NAFLD の生活習慣病頻度の比較、を検討した。

〔成績〕男性：年齢別内訳は、若年 59 例, 中年 193 例, 高齢 109 例。食習慣では若・中年で高脂肪食摂取が多かった。BMI>25 の肥満は若年 73%, 中年 68%, 高齢 47%, BMI>35 の高度肥満は 17%, 9%, 5%, DM は 27%, 25%, 45%, HTN は 13%, 22%, 47%, DL は 56%,

60%, 38% で、一般住民と比較し若・中年の肥満と DL が高率であった。女性：年齢別内訳は、若年 16 例, 中年 81 例, 高齢 167 例。食習慣では中年・高齢で果物・洋菓子摂取が多かった。肥満は若年 78%, 中年 66%, 高齢 51%, 高度肥満は若年 63%, 中年 12%, 高齢 5%, DM は 19%, 32%, 64%, HTN は 10%, 25%, 41%, DL は 38%, 50%, 46% で、一般住民と比較し若年の肥満と高齢の DM が高率であった。若年で目立つ高度肥満例では精神疾患を 80% に合併した。〈性差〉年齢分布、若年の高度肥満と DL、高齢の DM に有意な性差を認めた。〔結論〕性・年齢により NAFLD の主たる原因疾患が異なった。NAFLD の症例抽出や治療において、これらを考慮することが重要である。

原発性アルドステロン症における腎機能障害に関する研究

(¹東京女子医科大学内科学(第二), ²国立病院機構京都医療センター)

立木美香¹・田辺晶代¹・成瀬光栄²・木村 瞳¹・津曲 綾¹・

高木佐知子¹・肥塚直美¹・高野加寿恵¹・市原淳弘¹

〔背景〕原発性アルドステロン症 (PA) は本態性高血圧と比べ心肥大、腎機能障害の頻度が高いことが報告されている。特に、腎機能障害は PA の約 7% に合併し、副腎手術後に顕性化する例が報告されていることから、PA の手術前後の腎機能評価と対策は重要な臨床的課題である。〔目的〕PA における手術前後の腎機能とそれに影響する因子を解明する。〔対象〕摘出副腎の病理検査で診断が確定した PA 患者 34 例 (男性 12 例, 女性 22 例, 平均年齢 51 歳)。〔方法〕①術前の腎機能 (血清クレアチニン, 推定糸球体濾過量 (eGFR), 尿中微量アルブミン) と影響因子 (臨床像, 血圧, 内分泌検査), ②術前後の腎機能

の変化, ③術後の腎機能に影響する因子 (臨床像, 血圧, 内分泌検査) を検討した。〔結果〕①PA の 20% に腎機能低下を認め, 診断時年齢と高血圧罹病期間が主な影響因子であった。②術後に血圧と低カリウム血症は改善したが, 多くの例で血清クレアチニン上昇, eGFR の低下を認めた。③術前の血中アルドステロン濃度 (PAC) が術後の腎機能低下に影響する因子であった。〔考察〕PA では年齢・高血圧罹病期間および PAC が各々, 術前および術後の腎機能低下と密接に関連したことから, PA の早期発見・治療の重要性が示唆された。現在, 尿中微量アルブミン, NAG, 酸化ストレスマーカー等の解析から腎機能障害とその機序を検討中である。